

## (2) ICT化・情報化

### 茨城県教育委員会

校務の情報化による学校の事務作業量の軽減に関する調査研究

## 1. 事業の実施報告

### (1) 調査研究のねらい

笠間市に調査研究事業を再委託し、モデル校（笠間市立笠間中学校）及び市内小中学校担当教員、市教育委員会による検討委員会を立ち上げ、調査研究を実施する。

- ・市内全小中学校教職員を対象に「校務の情報化についてのアンケート調査」を実施し、校務の情報化に関する実態を把握する。
- ・児童生徒基本情報の構築と、それらを活用して、成績データ、出席状況データ等と帳票類を連動させることによって、名簿作成・管理、成績処理、帳票作成等の業務の軽減を図る具体的な方策について実践研究を行う。
- ・モデル校において、通信票、児童生徒指導要録等の表簿類の電子化に向けた具体的な手続きや課題の解決方法について、実践的な研究を進める。

### (2) 事業の実施状況

#### ア 校務の情報化についてのアンケート調査について

- ・市内小中学校におけるパソコンやイントラネット活用状況は、「共有フォルダによる教材や各種データの共有」及び「学校メール」の活用が中心
- ・学級担任等が成績情報処理、表簿類の作成に費やす時間について  
通信票児童生徒1人分の作成（手書きによる作成）時間・・・概ね70分程度  
指導要録（学籍・指導）児童生徒1人分の平均作成時間・・・概ね50分程度

#### イ 「校務支援システム」（エクセルで作成）の考案と運用について

- ・校務支援システムとして必要な機能の精査
- ・生徒情報管理を中心とした「校務支援システム」の作成
- ・「校務支援システム」の運用について  
電子化を検討する表簿類の検討（例：生徒基本データ、各種テスト成績素点簿、各種テスト集計表、成績処理補助簿、成績一覧表、通信票、私立及び県立高校調査書・指導要録（「指導の記録」）・指導要録抄本）
- ・システム運用規則の設定
- ・児童生徒情報の電子化と共有（いわゆる「いいところ見つけ」）の実施

## 2. 調査研究の成果（実施による効果）

#### ア 事務的な作業時間の大幅な短縮効果

- ・通信票作成にかかる時間の大幅軽減（1人分の作成平均時間は約20分）  
⇒ 5月の調査結果（75分/1人：本校の平均作成時間）の1/3から1/4程度に短縮  
※ 意識調査（対象：モデル校職員（1学期末）の結果から

#### イ 児童生徒情報の電子化と共有（いわゆる「いいところ見つけ」）による教育の質の向上効果

- ・電子情報としたことで適時的な生徒指導上の情報交換が実現

- ・データの活用により通信票の総合所見の内容等の充実

(例) 取組に対する教師の意見

- ・(生徒を全教職員で見守ることにより) 生徒の成長や発達を促す。
- ・「通信票の所見作成」や「教師間の生徒情報交換」及び「生徒理解」にも役立つ。
- ・「生徒と直接話す時間を増やすことができた。」や「部活動の指導に当てる時間が増えた。」など、生徒と直接関わる時間が増えていることを実感している。

### **3. 今後の取組予定**

ア 校務支援システムの導入に係る効果の検証

- ・事務的な作業時間の短縮及び教育の質の向上効果の検証

(職員、生徒、保護者を対象にアンケート調査による検証を予定)

イ 指導要録等の表簿類の電子化に向けた取組の推進

(電子化に向けたガイドラインの作成等)